

よしだともこの Linux 事始めの書

最終回 UNIXネタにワイ・ワイ・ワイ

—— その8 UNIX使いへの道はman / infoから

春の訪れを感じるこの時期は、
別れと旅立ちの季節でもあります。

京都ノートルダム女子大学
山崎沙緒里 よしだともこ

My “Happy智子の部屋Life”

テレビのトーク番組「**徹子の部屋**」が、スタートしてから25年を超え、2001年の2月1日で26年目に入ったそうです。平日の昼間の番組なので、そう頻繁に見られるわけでもないのですが、たまたまこの時期に番組を見ていて、「25年間とはすごいなぁ」と感動してしまいました。

聞き手の黒柳徹子もすごいんですけど、よしだが目じたのは、番組スタッフの方でした。というのも、雑誌連載にしても書籍発行にしても、裏方である編集者(スタッフ)の方が、書き手よりもずっと多くの作業や苦勞を負うものなので。

『**徹子の部屋**』規模の番組では何人くらいのスタッフがいるのか? が気になっていたところ、ちょうど2月1日の日経新聞に「**徹子の部屋のスタッフは、ディレクター8名を含む計10名**。彼らが本や雑誌で個人のデータを集めて黒柳に渡す。黒柳はそのデータをもとに、関連する著作があれば読むなど独自のリサーチを行なう」と書かれていました。なるほどね。また、その新聞には、黒柳徹子の「子供のころからしゃべるのは好きだったが、話を聞くことも大好きだった」という発言も書かれていました。私もそうなんですよー。

で、こんな会話好きにとっては、自分のお部屋に、しゃべるネタを持った人が次から次へと来て話してくれるほど楽しいことはありません。実際、よしだが大学内に自分のお部屋(正式名称「**個人研究室**」)をいただいて以来、いろいろな魅力的な人々、外部の方や学内の方や学生たちがこの部屋を訪れてくれました。それまで長年、人から貴重なお話を伺うた

めに多くの訪問(時には遠方への旅)を繰り返してきたものとしては、「自分が訪問するのも好きだが、来て話をしてもらうのも大好き」という感じでした。

でね、もしそれを雑誌記事にするなら、タイトルは「**智子の部屋**」かな……とか考えていて気が付いたのですが、本連載の「**UNIXをネタにワイ・ワイ・ワイ**」シリーズが、まさにそれだったんですね。ネタを持った素敵な方が大学に話(講義)をしに来てくれて、それを記事にまとめていたわけですから。

ということで、今回も「**智子の部屋**」発のネタをお届けします。具体的なテーマは、「**UNIX使いの基本man / infoの活用**」です。これも毎週火曜日のUNIXdayで、講師役の津邑公曉さんが講義してくださった内容に対する、学生によるレポートです。ちなみにこのテーマは、上野敦司さん(lilo、ことらく、WLUG所属)の意見をもとに採用されたものです*1。

man / infoの存在を知って活用(読んで理解)できるようになることで、UNIX使いとしての正しい道を歩めると思います。「分からないことは人に聞く前に自分で調べる」というのも、UNIX使いとして重要な点ですものね。

では以下に、京都ノートルダム女子大学3年生(2001年3月現在。つまり4月からは4年生)の山崎沙緒里さんのレポートを紹介しましょう。

実際、よしだが身近な人々を観察(得意の「人間ウォッチ」)した結果、大学の研究室などの師弟関係の中でUNIXに詳しくなった人は、ごく自然にman / infoを始めとするオンラインドキュメントを活用しておられました。

*1 2000年10月22日に、津邑さんとよしだとで、WLUG(和歌山Linux Users Group:記事末のRESOURCE 1を参照)主催のイベントに参加して、ノートルダムのUNIXdayのことを話した後に、上野敦司さんが津邑さんに、このテーマを提案してくださったそうです。上野さん、どうもありがとございました。

山崎沙緒里さんによる man / infoレポート

その1 manの使い方

UNIXを使っていて、分からないことがあるときはmanやinfoというコマンドを使って調べることができます。ここでは、まずmanの使い方から説明しましょう。

manは、マニュアルを表示するコマンドです。「コマンド名は知っているが、使い方が分からない」とときには、次のように

```
$ man ls
```

とman*2の後にスペースを空けて、コマンド名(ここではls)を入力すると、画面1のようなlsコマンドのマニュアルが表示されます(環境によって内容は若干異なります)。

一般的なmanページは、

- ・名前(NAME)
- ・書式(SYNOPSIS)
- ・説明(DESCRIPTION)
- ・オプション(OPTION)
- ・ファイル(FILE)
- ・関連項目(SEE ALSO)

といった項目で構成されています。



画面1 「man ls」を実行したところ

実行例1 grepで条件を絞り込む

```
$ man -k directory | grep list
genhddlist (8) - Generate header list from a directory containing binary .RPM packages.
ls (1) - list directory contents
```

表1 man画面のキー操作

キー	機能
Spaceキーまたはf	次の画面に進む
bを入力	前の画面に戻る
Returnキーまたはj	1行下に移動
qを入力	man表示の終了

画面内の移動方法は、表1に示す通りです。次の画面に進むにはSpaceキーが「f」、前の画面へは「b」で戻れます。Enterキーが「j」で1行下方向に移動し、終了するには「q」を押します。この操作はlessコマンドで表示した画面内の移動と同じです*3。

「コマンド名も分からない」とき、manコマンドに-kオプションを指定すると、キーワードからコマンドを検索することができます。例えば、

```
$ man -k directory | less
```

とすると、「directory」をキーワードに持つコマンドが調べられます。表示される内容が多い場合、画面は最後の行まで一気に流れてしまいます。そのような場合は、例のようにlessを使うと画面内をスクロールして見ることができます。

2つ以上の語をキーワードとして使いたいときには、次のようにgrepコマンドを利用します。例えば、

```
$ man -k directory | grep list
```

と入力すると、「directory」というキーワードを含むコマンドのリストから、さらに「list」というキーワードを含む行だけが絞りこまれて表示されます(実行例1)。この結果から、ディレクトリの内容を表示するコマンドの名前が「ls」だということが分かりますね。

その2 infoの使い方

manのほかにも、一部のGNUコマンドやEmacs上で使えるコマンドを調べるものに、「info」があります。コマンドライ

*2 環境によっては、manコマンドの実行結果が英語で表示される場合もある。例えばVine Linuxで日本語のマニュアルを表示したい場合は、manではなくjmanコマンドを使う。

*3 manのページ表示には、環境変数PAGERで指定されているコマンドが使われます。ノートルダムではデフォルトでless指定されているためこうなりますが、環境、よってはmoreなどが指定されている場合もあり、動作が異なることがあります(津邑さんによる補足)。



画面2 Infoを起動した直後



画面3 Infoウィンドウ内の基本コマンド

ンから

```
$ info
```

と入力すると、画面2のような画面が表示されます。「キー“q”で終了し、“?”でInfoのコマンドをリストアップし、“d”でここに戻ります」と書かれているように、infoの操作はキー入力で行ないます。画面の一番下の行に説明がありますが、C-h (Ctrlキーを押しながらh)と入力するとinfoの使い方が表示されます(画面3)。「q」と入力してinfoを終了します。

infoは通常Emacs上で利用されることが多いので、実際にEmacs上で試してみましょう。コマンドラインから「emacs」と入力してEmacsを起動し、「M-x info」*4と入力してEnterキーを押します。すると画面は画面4のように変わります。太字の

文字がいくつか並んでいますが、これがメニューとなる項目です。

メニューの中に「MH-E (Emacs上でMHを使ってメールを読み書きするコマンド)」という項目があります。試しにこれを使ってみましょう*5。「MH-E」とある部分にマウスポインタを移動し、マウスの真ん中のボタンをクリックします。すると画面5が表示されます。さらに、メニューから「Reading Mail」を選ぶと、メールを読むときに便利なコマンド一覧が表示されます(画面6)。先ほどと同じ要領で「Using mh-e」を選ぶと、MH-Eに関する情報が表示されます。このように、詳細画面を次々と進めて自分の知りたい情報を見つけていきます。画面上部にある「index link (「Top」や「Preface」などの太字の項目)をマウスの真ん中のボタンでクリックすると、前のページ



画面4 EmacsでInfoを起動した画面



画面5 MH-Eでメールを読む時に使うコマンドの説明

*4 メタキーを押しながらxを入力し、infoと入力。通常メタキーにはAltキーかEscキーが割り当てられています。

*5 ノートルダムでは歴史的に(笑)、学生の多くがMH-Eを使い続けているためにこれを選んでいただけなので、MewやWanderlustなど、自分が使っているメーラーを選べばよい。

表2 Emacs上のinfo画面のキー操作

キー	機能	マウス操作
Enterキー	メニュー項目を選択	マウス中ボタンで選択
p	前ページに戻る	画面上部のリンクから項目を選んでマウスの中ボタンを押す
u	上の階層に戻る	画面上部のリンクから項目を選んでマウスの中ボタンを押す



画面6 MH-Eのコマンド一覧

やトップページに戻れます。

キー操作でも項目の選択やページの移動が可能です。項目は矢印キーを使って選択し、Enterで詳細画面を表示します。前のページに戻るには「p」、上の階層に戻るには「u」と入力します(表2)。

TKnamazuを使った情報検索

Plamo LinuxやVine Linuxなどを始めとする、多くの日本語版Linux/パッケージには、man/info以外にも、気軽に使える情報検索の手段として、「日本語全文検索システムNamazu」を利用してオンラインドキュメントを読む環境が、あらかじめ整っています。例えば、

```
$ tknamazu
```

というコマンドを実行することで起動する「TKnamazu」は、Namazuをグラフィカルなユーザーインターフェイスで利用するために、Tcl/Tkというソフトウェアを利用して作られた検索クライアントです。

キーワードを入力するフィールドに、調べたい用語を入力し、「Search」と書かれたボタンをマウスでクリックすることで、そのキーワードが含まれる文書が表示されます。表示されたドキュメントを読むには、右側のスクロールバーをマウスでドラッグして、次のページに進んでいきます。キーワー

ド部分が赤字で表示されますので、自分が読みたい部分を見つけるのも容易です。

最後に.....

途中休載も含めると、2年ほど続けてきた本連載ですが、よしだの個人的な理由で、今回でひとまず終了させていただくことにしました。申し訳ございません。

この連載では、特に「Open Source Toys Project (オープンソースのぬいぐるみ作りプロジェクト、[2])」の進捗報告をさせていただき、感謝しています。おかげ様でプロジェクトは非常に盛り上がっています。このプロジェクトは、2月10日と11日に秋葉原で開催された「オープンソースまつり」にブースを構えた結果、合計450枚強のちらしが配布でき、多めに用意したはずの各種型紙も、すべてなくなったそうです。よしだは残念ながら会場に出向けなかったのですが、大成功だったとの速報を受けて、今後のこのプロジェクトのますますの発展を想像し、喜んでいます。

また、2000年夏からの「UNIXをネタにワイ・ワイ・ワイ」シリーズでは、学生による「UNIXdayの報告」を記事の中心に持ってきたことで、学生には非常に活躍してもらったことに感謝しています。と同時に、UNIXdayの講師役の津邑公曉さんには、毎回、学生および私の原稿の査読(監修)まで、強引にお願いすることにもなり、非常に感謝しています。何から何まで、どうもありがとうございました。

最後に、「よしだともこのLinux事始めの書」を介して知り合えた読者のみなさん、連載はひとまず終了してしまいましたが、新しいアイデアやコメントなどは、よしだ(tyoshida@notredame.ac.jp)までメールをくだされば非常に嬉しいです。

では、また、どこかで。

おわり

R E S O U R C E

- [1] 和歌山Linux Users Group
<http://lb.tanabe-cci.or.jp/wlug/>
- [2] Open Source Toys Project
<http://www.tomo.gr.jp/ost/>